

県外派遣報告書

審判員名	箱石 拓也	所属	U18
大会名	令和6年度第35回関東高等学校バスケットボール新人大会		
期間	2025年2月1日(土)～2日(日)		
会場	日環アリーナ栃木		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月27日(月)	審判会議、研修会	ZOOM会議 自宅他	
2月1日(土)	男女1、2回戦	日環アリーナ栃木	
2月2日(日)	男女準決勝、決勝	日環アリーナ栃木	
会議 講義 内容			
<p>(1)挨拶</p> <p>○一般社団法人栃木県バスケットボール協会 専務理事 鈴木 克美 様</p> <p>○一般社団法人栃木県バスケットボール協会 審判部長 梶 崇司 様</p> <p>○関東バスケットボール協会 審判委員長 平原 勇次 様</p> <p>(2)指名審判員紹介・レクチャー</p> <p>○一般財団法人東京都バスケットボール協会 S 級審判員 佐藤 浩太様</p> <p>【B級からA級へ大きく変わった要因】</p> <p>▶上級審判員と一緒に試合を観る、一緒にビデオ反省をする。 トップリーグのあとのビデオ反省も貴重。S級の視点や考えを知る。長時間かけて映像研修をもらった。</p> <p>▶指導者目線からの判定を知る 冷たい笛から選手やチームの心情を理解した笛に変化。 ファールだと思ったものが、プレーヤー目線や戦術、その前のプレーなど踏まえて考えるとファールでなく判断できる。考えが変わる。</p> <p>○一般社団法人東京都バスケットボール協会 S 級審判員 富樫 彰子様</p> <p>▶母校の外部コーチの経験から審判の目標が明確に。 高校総体を担当できるようになりたい→トップリーグを担当したい そのために目の前の一つ一つを積み上げる。</p> <p>▶取り組んできた内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の前のゲームに真摯に取り組む ・アドバイスや指導を真摯に受け止め次に活かす ・チャレンジして失敗とも向き合う ・長期と短期の目標を明確化する ・情報を掴みに行く→足を運んでたくさんの試合を観て、感覚を養う <p>▶失敗したことの原因分析 メンタル？メカ？判定力？ →いまは映像があり原因分析しやすい。こだわって分析。何ができて何ができていないのか明確に。</p> <p>▶信頼される審判へ 人間力も大切。選手やコーチに信頼される。審判仲間にも信頼される。</p> <p>○一般社団法人埼玉県バスケットボール協会 S 級審判員 大井 陽平様</p> <p>▶全てのゲームにおいてPDACサイクルを大切に</p> <ol style="list-style-type: none"> ①Plan:そのゲームにどういう風に臨むかプラン ②Do:チャレンジ！やってみる！ ③Check: オンザコートでのチェックを増やす。 →選手やコーチにフィットしているか。(インターバルやニューリードに入るとき) ④Action:その都度改善していく。ゲーム後の反省だけでなく、ゲームの中も改善。 <p>▶チェックとアクションをとにかく増やす。映像研修。感覚。 ▶周りの方たちの助けられて今がある。 自分がここに行きたいという目標が明確になればたくさんの人のサポートが受けやすい。 高校総体を担当できるようになりたい→トップリーグを担当したい そのために目の前の一つ一つを積み上げる。</p> <p>▶長期目標、短期目標を立てましょう。</p> <p>(3) 審判割当確認</p> <p>(4)連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合運営についての確認事項(チーム伝達事項) ・各係からの連絡(会場・輸送・宿泊・総務・その他) 			

実技					
担当試合	期 日	2025年2月1日(土)	男子一回戦		
	対戦カード	山梨学院	VS	宇都宮工業	CC (U1) U2
	相手審判	CC:山崎昭一(東京) U1:箱石拓也(埼玉) U2:宮川彪瑠(千葉)			
ミーティング内容		主任 大井陽平(埼玉)			
<p>・地元開催県のチームと山梨学院との対戦カード。山梨学院はインサイドに外国籍がいる。宇都宮工業はアウトサイドを中心に得点を積み重ねていくスタイルのチームだったので、ショットの前のスクリーン、1ON1に対するディフェンスとオフェンスのやりとり、AOSとリバウンドを中心にゲームコントロールをしようと考えていた。結果的には、山梨学院が優勢で最後まで押し切る結果となったが、地元開催県のチームということもあって、周りの声援や大会関係者の注目もあり、非常に重要な試合だったと思う。緊張感のある中で、山梨のインサイドのテンポセット。宇都宮工業のトラベリングの整理。この二つを序盤で整理できたことによって、最後までクルーと集中して取り組めた。</p> <p>講評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンについて。→プレゼンの意識はグッド。プレイにマッチさせていくことで更に良くなる。 ・判定の根拠がより明確になってきている。→強さにつながっている。プレゼンも含め。鳴らす場所も意識していきたい。どこで鳴らしてプレゼンするかで、より良くなる。理想論ではあるが、コールした瞬間の場所で、何を吹いたか？をみんなに周知できるところまで持っていきたい。より良いアングル、位置取り。そこから、ペイシエントコールにも繋げていきたい。 ・後半のUF or NFからのチームボーナスFT2本が抜けてしまったケースについて。クルーと共有して進められたが、処置は正しくなかった。正しい方向に進められるように行けたら良かった。 					
担当試合	期 日	2025年2月1日(土)	男子一回戦		
	対戦カード	桐生第一	VS	宇都宮北	(CC) U1 U2
	相手審判	CC:箱石拓也(埼玉) U1:飯塚貴行(神奈川) U2:小神野拓海(茨城)			
ミーティング内容		主任 岡 龍哉(栃木)			
<p>・1試合目に引き続き、開催県の対戦カードで注目度は高かった。両チームともアウトサイドを中心に攻撃を組み立てながら、得意の早い展開でゲームを進めていった。できる限り両チームの特徴を発揮させてタフになるようにゲームを進めていくことを打ち合わせし、プラン通りに実行できた。途中でラフになりかけたところでは、必ず笛が入っていたのでゲームの方向性がズレることなく終わらせることができた。</p> <p>講評</p> <p>ゲームに水を差してしまうような余計な笛がなくて良かった。ゲームもラフにならずに両チーム集中してくれていた。リーガルORイリーガルのどちらかにつけないといけないうちに、プライマリーの方がコールに繋がっていたので、良かったと思う。</p>					
全体の感想					
<p>男子一回戦を2試合担当させていただきました。どちらの試合も地元開催県の栃木のチームの試合だったので、注目されていたカードを割り当ていただきました。判定基準や考え方、振舞いやコミュニケーションなどをチャレンジすることができました。多くの審判員の皆様と一緒に試合を見させていただき、お話を聞くことができました。トップレフェリーが普段どういったことを感じながら試合を運営しているのか、その一端に触れられたことは非常に貴重な時間でした。最後になりますが、この度ご派遣いただきました埼玉県審判委員長眞榮喜様、大会期間運営にご尽力いただきました栃木県バスケットボール協会の皆様、審判担当の梶様をはじめとした審判員の皆様、割当クルーやTO役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。</p>					

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	小原 宏太	所 属	U18 東部連盟
大会名	令和 6年度 関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	2025年 2月1日 ~ 2日		
会 場	日環アリーナ栃木		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
1月 27日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 1日	1・2回戦	日環アリーナ	
2月 2日	準決勝・決勝	日環アリーナ	
審判会議、研修会 講義内容			
【レクチャー】			
●佐藤浩太氏（東京） 上達のきっかけとして、S級の方々と一緒に試合をみること。フローにフィットする笛とチームとしての目線を持つことが大切である。			
●富樫彰子氏（東京） ①目の前の 1 試合 1 試合を真摯に取り組む。②アドバイスを謙虚に受ける。③チャレンジと失敗の繰り返しである。④長期目標と短期目標を明確に。⑤情報を掴みにいく。信頼される審判になっていきたい。人間力も同様に。			
●大井陽平氏 数年前に受けた富樫さんのレクチャーがきっかけ。PDCA サイクルを大切に。それぞれのゲームで必ずプランを立てる。ゲームの中でチェックとアクションをする。10 年前に立てた目標が今実現した。今までの過程も非常に貴重であった。			
担当試合①			
期 日	2月1日（土） 1回戦		
対戦カード	八王子高等学校（東京） vs 市立柏高等学校（千葉）		
ク ル -	CC：中山克則氏（茨城） U1：小原宏太（埼玉） U2：大房建太氏（栃木）		
ミーティング内容	審判主任：若林謙作氏（栃木）		
▶ゲーム前の PGC チームの特徴確認 2m 選手が両チームにいる オールコート・速攻が繰り返されていく予想からのとるべき対応の確認等。			
▶ゲーム後のミーティング 1Q 途中で負傷・出血事案がおきた。自身のプライマリーで発生したことがわからずノーコール。その後時間が経過してからのストップで対応がよくなかった。存在感が弱い。フィットネスをもっと使い、淡々と進める良さもあるとともに時には注目を集めるプレゼンテーションを行うように。コートから目が離れてしまう瞬間があるため常に見る。トランジションをより早く行い、前も持って且つ長い時間プレーを止まってみる習慣をつけること。			
担当試合②			
期 日	2月2日（日） 準決勝		
対戦カード	日本航空高等学校（山梨） vs 土浦日本大学高等学校（茨城）		
ク ル -	CC：渡邊諭氏（栃木） U1：富樫彰子氏（指名） U2：小原宏太（埼玉）		
ミーティング内容	審判主任：赤羽沙耶氏（栃木）		
▶ゲーム前の PGC 3 or 2 の責任と協力 リバウンドをしっかりと見届ける ターンオーバー発生時のローテーション 前日の試合様子の共有			
▶ゲーム後のミーティング リバウンドファールが前半多くあり、笛が入っていた。その中でも削れるものもあった。リードにいる際のドライブへの判定が弱かった。予			

測しておくとともにそれに合わせたポジションを取る。女子によくあるプレーであることへの理解を高めること。自分の基準をもちつつ修正を加えていくように。

全体の感想

この度は関東高等学校バスケットボール新人大会に派遣いただきありがとうございました。
初めての2泊審判員としての派遣で、担当したゲームやクルーが相当貴重なものでした。2試合を担当しゲーム中に感じたことやゲーム後のミーティング、レクチャーや多くの方々との関わり、非常に刺激を受けた大会となりました。この経験を県内でも還元していければと思います。

最後になりましたが、眞榮喜審判部長をはじめ、埼玉県審判部の皆様、本大会に派遣していただき有り難うございました。そして、親切に対応してくださりました梶様をはじめとする栃木県バスケットボール協会審判部の皆様、関東ブロック審判長平原様、ご講義頂きました指名審判員の、佐藤様、富樫様、大井様、大会期間中大変お世話になりました。全ての役員の皆様にも感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

県外派遣報告書

審判員名	堀口 拳	所属	U18西部
大会名	令和6年度第35回関東高等学校バスケットボール新人大会		
期間	2025年2月1日(土)～2日(日)		
会場	日環アリーナ栃木		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月27日(月)	審判会議、研修会	ZOOM会議 自宅他	
2月1日(土)	男女1、2回戦	日環アリーナ栃木	
2月2日(日)	男女準決勝、決勝	日環アリーナ栃木	
会議 講義 内容			
<p>(1)挨拶 ○一般社団法人栃木県バスケットボール協会 専務理事 鈴木 克美 様 ○一般社団法人栃木県バスケットボール協会 審判部長 梶 崇司 様 ○関東バスケットボール協会 審判委員長 平原 勇次 様：都合により欠席</p> <p>(2)指名審判員紹介・レクチャー ○一般財団法人東京都バスケットボール協会 S 級審判員 佐藤 浩太様 【B級からA級へ大きく変わった要因】 ▶上級審判員と一緒に試合を観る、一緒にビデオ反省をする。 トップリーグのあとのビデオ反省も貴重。S級の視点や考えを知る。 長時間かけて映像研修をしてもらった。 ▶指導者目線からの判定を知る 冷たい笛から選手やチームの心情を理解した笛に変化。 ファールだと思ったものが、プレーヤー目線や戦術、その前のプレーなど踏まえて考えるとファールでなく判断できる。考えが変わる。</p> <p>○一般社団法人東京都バスケットボール協会 S 級審判員 富樫 彰子様 ▶母校の外部コーチの経験から審判の目標が明確に。 高校総体を担当できるようになりたい→トップリーグを担当したい そのために目の前の一つ一つを積み上げる。 ▶取り組んできた内容 ・目の前のゲームに真摯に取り組む ・アドバイスや指導を真摯に受け止め次に活かす ・チャレンジして失敗とも向き合う</p>			

- ・長期と短期の目標を明確化する
- ・情報を掴みに行く→足を運んでたくさんの試合を観て、感覚を養う
- ▶失敗したことの原因分析
- メンタル？メカ？判定力？
- いまは映像があり原因分析しやすい。こだわって分析。何ができて何ができていないのか明確に。
- ▶信頼される審判へ
- 人間力も大切。選手やコーチに信頼される。審判仲間にも信頼される。

○一般社団法人埼玉県バスケットボール協会 S 級審判員 大井 陽平様

- ▶全てのゲームにおいてPDACサイクルを大切に
- ①Plan:そのゲームにどういう風に臨むかプラン
- ②Do: チャレンジ！ やってみる！
- ③Check: オンザコートでのチェックを増やす。→選手やコーチにフィットしているか。(インターバルやニューリードに入るとき)
- ④Action:その都度改善していく。ゲーム後の反省だけでなく、ゲームの中も改善。
- ▶チェックとアクションをとにかく増やす。映像研修。感覚。
- ▶周りの方たちの助けられて今がある。
- 自分がここにきたいという目標が明確になっていればたくさんの人のサポートが受けやすい。
- ▶長期目標、短期目標を立てましょう。

(3) 審判割当確認

(4)連絡事項

- ・試合運営についての確認事項(チーム伝達事項)
- ・各係からの連絡(会場・輸送・宿泊・総務・その他)

実技

	期 日	2025年2月1日(土)	男子	女子	男子1回戦
担当試合	対戦カード	八王子(東京) VS 日本航空(山梨)	CC	U1	U2
	相手審判	CC:平出剛氏(栃木) U1:三角峻氏(神奈川) U2:堀口拳			

ミーティング内容 主任 梶崇司氏(栃木)

【試合前】

- ウィークサイドヘルプの判定
- ・プライマリー:センター
- ・一瞬の判定でなく、最初からディフェンスを視野に入れておく。
- ・リードもオープンアングルの可能性あり。
- トリッピング
- ・高校生は「止まれない」「やりすぎた」がキーワード
- ・止まれなくて引っかけた膝や足をコールにつなげる
- コールを我慢するのではなく吹き急がない
- ・点でなく線でプレーを見る。
- ・プライマリーの2対を早く捕まえて長く見る。
- ・影響が出たらコール。マージナルに逃げない。
- ツーモア、ネクストボーナスの確認

【試合後】

- ポジショニングの重要性
- ・トレイルの位置が高く、プロテクトシュートの確認が十分でない。
- ケガにつながるケースが自分のプライマリーでノーコール。センターから鳴らしていただいた。
- ・何のためにそこに動いたのか、意図をもってポジショニング。
- ・ドライブが起きてボールは下に移動しているのに、トレイルはそのままの位置にすることが多い。
- 交代の確認
- ・交代のインは確認できたが、アウトが確認できず6人で再開してしまうケース
- 自分で人数を毎回確認する。徹底。
- エッジの見方
- ・リードでエッジを見るが、ペイントも見えてしまっていて中途半端。最後まで見切る。
- ゲームフロー
- ・ファウルで止めに来るものの判定が遅い。残りの時間やファウルバランスがわかればもっと簡単に鳴らせる。
- ・4Q大きく負けているチームのファウルがかさむ。バイオレーションで対応できたケースもあった。
- 自分の判定基準
- ・この試合ではCCの平出氏が判定基準を明確に示してくださり、基本的にはそこに乗る形で基準をつくった。
- その中でも自分が鳴らしたいものは明確に意思をもって鳴らしたい。自分がどうしたいかをもち。

全体の感想

本大会では、男子2回戦の試合を担当させていただきました。日頃トップリーグを最前線で担当されている方とクルーをともにすることができ、判定基準や考え方、振舞いやコミュニケーションなど、同じコート上でたくさんを感じ学ぶことができました。個人的には反省だらけの試合となりました。できたこと、できなかったこと、次にどうしていけばよいかを整理する必要があると感じています。今回の貴重な経験を決して無駄にせず今後につなげます。

多くの審判員の皆様と一緒に試合を見させていただき、お話を聞くことができました。トップフェリーが普段どういったことを感じながら試合を運営しているのか、その一端に触れられたことは非常に貴重な時間でした。まずはその考えに少しでも近づくこと、そしてコート上で表現してみることにチャレンジしていきたいと思えます。

また、今年度をもって定年により、上級審判員を勇退される渡邊整様、渡邊諭様、三好啓太様のお話もお聞きすることができました。審判活動を長く続けていくことの難しさや大変さを感じつつ、やりがいや輪の広がりには本当に素晴らしいものだと感じました。次年度から上級審判員の一人として、皆様の輪の中に入れていけるよう一生懸命活動したいと思います。

最後になりますが、この度ご派遣いただきました埼玉県審判委員長眞榮喜様、大会期間運営にご尽力いただきました栃木県バスケットボール協会の皆様、審判担当の梶様をはじめとした審判員の皆様、割当クルーやTO役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	藤林 比登美	所 属	U18 東部連盟
大会名	令和 6 年度 関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	2023年2月1日～2日		
会 場	日環アリーナ栃木		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
1月27日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月1日	男女1・2回戦	日環アリーナ	
2月2日	男女準決勝・決勝	日環アリーナ	
審判会議、研修会 講義内容			
【指名審判員レクチャー】			
●佐藤浩太氏（東京）			
S級の方々と一緒に試合を観ることで、違った視点を学ぶことができた。			
ゲームフローにフィットする笛を心掛ける。			
指導者としての目線を持つことで、選手やチームの心情を理解する笛に変えることができた。			
●富樫彰子氏（東京）			
目標を達成するために目の前のゲーム真摯に取り組むことを心掛けた。			
長期目標と短期目標を明確にし、チャレンジと失敗を繰り返す。			
自ら情報を掴みに行くことや、映像を使って失敗したことの原因分析を行う。			
今後の目標も変わらず、信頼される審判になること。			
●大井陽平氏（埼玉）			
自分が立てた目標に向かってPDCAサイクルを回し、試合中にもチェックとアクションを繰り返す。			
毎試合必ずゲームプランを立て、ノートに記入している。			
目標を明確にして、周囲の人にそれが伝わるように活動することも大切。			
担当試合①			
期 日	2月1日（土）1回戦		
対戦カード	市立前橋（群馬）vs 八雲学園（東京）		
ク ル ー	CC：雨宮 恵氏（山梨） U1：藤林 比登美（埼玉） U2：森田 倅平氏（栃木）		
ミーティング内容		審判主任：東 祐二氏（本部）	
▶ゲーム前のPGC			
・チーム情報の共有			
・メカニクスの確認			
▶ゲーム後のミーティング			
○keyとなる留学生に対して			
ファウルされているものとファウルしているもの。ゲームフローを感じながらバランスよく笛を入れていく必要がある。			
○ブロック or チャージについて			
ノーチャージセミサークルの適用によりブロッキングとしたケースについて、適用がなければ明らかにチャージングとなるケースであるこ			

とは知っておく。(留学生の体格、身体能力やストライド等も加味)

○プレゼンテーションの工夫

メンバーが変わった後半についてテンポよく判定がされていたが、笛の吹き方には工夫が必要。

担当試合②

期 日 2月1日(土) 2回戦

対戦カード 日本航空(山梨) vs 東京成徳(東京)

ク ル ー CC: 佐藤 浩太氏(指名) U1: 藤林 比登美(埼玉) U2: 田中 由紀子氏(栃木)

ミーティング内容

審判主任: 佐田 幸一氏(山梨)

▶ゲーム前のPGC

- ・チーム情報の共有
- ・ゲームフローについて
- ・ブロック or チャージのケース

▶ゲーム後のミーティング

○ゲームコントロールについて

Good no call がいくつもあり、クルーとしてタフなゲームへと運ぶことができた。選手がアジャストしてくれた。

留学生に対しての守り方は本当に正当であったのか振り返る必要がある。

○プレゼンテーション

ベンチとのコミュニケーションについて、「言われている感」を出さない。その魅せ方については工夫が必要。

○判定について

インサイドでの留学生のオフェンスファウルについて、仕掛けはどうだったか? リードからローテーションしながらの判定になってしまった。

全体の感想

女子の1回戦・2回戦の2試合を担当させていただきました。どちらの試合にも留学生の選手がいて、そのポイントにどのようにメッセージを伝えていけるかがキーとなる試合でした。U18カテゴリーでも、留学生が所属している女子チームが多くなってきているので、どのようなゲームコントロールが必要であるのかを考えさせられる機会となりました。

今大会では、上級審判員としての定年を迎える御三方とご一緒することができ大変光栄に思っております。私がA級に昇格するところから現在に至るまで、たくさんの技術を教えていただき背中を押していただきました。少しでも恩返しができるよう、S級審判員を目指し日々の審判活動に取り組んでいく覚悟です。

最後になりましたが、大会の開催にあたり準備、運営して下さった栃木県バスケットボール協会及び栃木県高体連専門部の皆様、指名審判員の皆様、今大会をご一緒させていただいた審判員の皆様、日頃よりご指導いただいております埼玉県指導委員の皆様、心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。